

といへり、〇下略

〔本朝世事談綺〕四鳥追 踏歌の遺風なり、相傳ふ、延文のころ、參河國に長者あり、數千町の田圃を  
持、士民にして士民ならず、武士にあつて武士ならず、常に貴人高位にまじはり、三槐九棘に因あ  
つて、富て貴き人也、代々時宗をとつとみ、遊行上人を仰ぐ、一とせ正月、遊行上人此第宅に舍せり、  
村の土人歳首禮を長者の家になす、その中にさゝらをすりて、うたふもの數人あり、いかなる者  
ぞと上人の尋られしに、鳥追と云者也とぞ、蓋鳥追は長者の田圃の鳥を追ふばかりの勤にて、妻  
子を養ふ者ども、長者の諺を歌にうたひ、年のはじめに、ことぶきを述るなり、唄の發端に、せぢよ  
やまんぢよの鳥追と云は、千代も萬代も殿の田の鳥を追へし也、お長者のみうちへ、おとするは  
たれある、右大臣に左大臣、關白殿が鳥追、御内證へおとづる、人は、高位高官、扱は鳥を追ふわれ  
われかとなり、にしだもよせんでよ、ひがしだもんでよは、東西に八千町の田を持てる事を云り、  
〔諸國年中行事大成〕正月元日 雜事、今日より正月、中物もらひの輩、〇中略又一種鳥追といふもの  
あり、少き女編笠を著し、さゝらをすり、祝詞を唄ひ、田圃の鳥を逐ふ聲に擬す、其曲章辭等古雅の  
ものなり、

〔年中行事故實考〕正月鳥追 是は食の事を祝ふ、五穀豐饒をことぶくなり、其詞に千町や萬町の  
鳥追と唱ふるは、田の事をいふなり、

〔甲子夜話〕三亡友仁正寺市橋氏云フ、至俗ノコトニテモ、人情ニ叶フコトハ、永ク傳ルモノト見ヘ  
タリ、歳暮ニ市中ノ門々ニテ、乞兒走リナガラ、手ニ竹ヲ打テ口早ナル事ヲ言フ、節季候ト云、イソ  
ガハシキ態度アリ、春初ニ乞兒ノ女、衣服ヲ飾リ編笠キ、三線、胡弓ナド携ヘ、彈ジツ、歌ウタフヲ  
鳥追ト云、悠々トシタル容體ナリ、イカニモソノ時ノ人情ニヨク叶ヘリ、年々カハラズアル筈ナ  
リ、